

中銀カプセルタワービルの解体2022 と次世代カプセルの提案

鈴木 敏彦 建築学部 建築デザイン学科 教授

キーワード: カプセル宣言、ホモ・モーベンス、カプセル建築、ニューノーマル

概要

2022年4月に中銀カプセルタワービルの解体が始まった。建築家の黒川紀章が提唱したカプセルの意義や、今後の活用方法について様々な議論が行われている。移動しながら働き、暮らすホモ・モーベンスという人物像と、その住まいである次世代のカプセル建築を考察する。ウィズコロナの暮らしの中で小屋やトレーラーハウスが注目を集めている。「可動産」である動く建築はいわばカプセル建築と同種だ。黒川は1969年に「カプセル宣言」で住まいのカプセル化を予言した。ホモ・モーベンスのための住まいは、もはや未来の話ではない。アフターコロナの暮らしが視野に入ってきた。

1 美術館への寄贈

中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクトでは、保存状態の良いカプセルを修復し、美術館へ寄贈する方針を発表した。カプセルが世界中の美術館に移送され、メタボリズム建築や黒川紀章の思想を振り返る展覧会の開催が期待される。

2 宿泊施設としての再活用

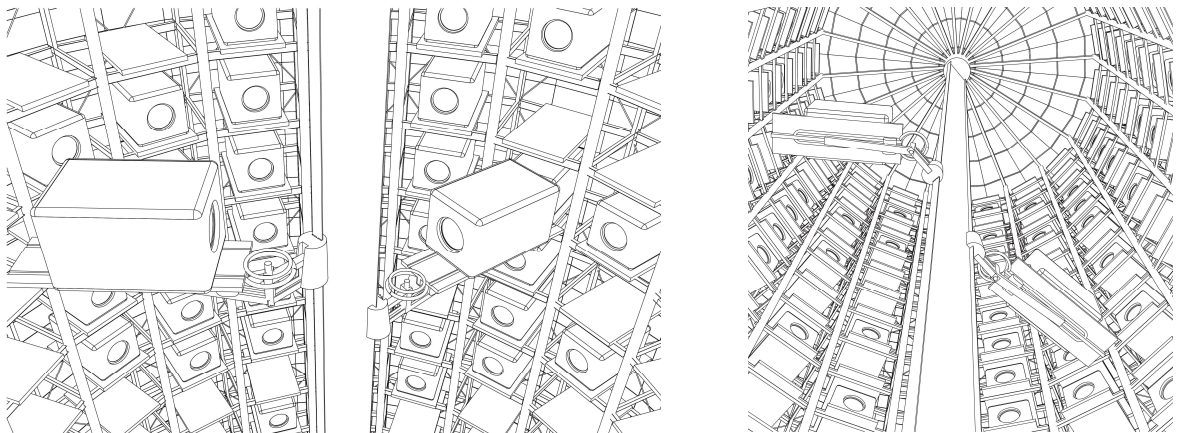
取り外したカプセルからアスベストを除去し、修復して宿泊施設として再利用する計画がある。日本各地のホテルや旅館などの宿泊施設との連携や、民泊としての運営が考えられる。

3 次世代のカプセル建築

鈴木研究室では以下の3つのカプセル建築を提案している。

カプセル循環型活用センター／着脱型カプセルタワーマンション／レベル5自動運転型カプセルタワー住宅
カプセルの設置、取り外し、移送が容易に行うために、図のような駐車場式ロボットタワーを採用する。

都市と都市との間を自由に移動し、働く、ホモ・モーベンスの時代が目前に来ている。



『黒川紀章のカプセル建築』鈴木敏彦 (Opa Press, 2022)



関連情報

- 関連論文 = 『黒川紀章のカプセル建築』 <https://www.atelier-opa.com/cap.html>
- 関連 URL = 「カプセル建築プロジェクト」 <https://www.capsule-architecture.com/>

工学院大学 産学連携室

〒163-8677 東京都新宿区西新宿一丁目24番2号 〒192-0015 東京都八王子市中野町2665-1
TEL:03-3340-0398 FAX:03-3342-5304 TEL:042-628-4928 FAX:042-626-6726
E-Mail: sangaku@sc.kogakuin.ac.jp URL: <https://www.kogakuin.ac.jp>